



俳人・宇多喜代子が90年の生涯を語り下ろす初の自伝！

俳壇の第一線で颯爽と活躍してきた宇多喜代子が初めて明かす半生の記。

戦火の記憶、師や仲間との交流、句作の軌跡、そしてこれからの俳句に思うこと。

若手俳人・神野紗希を聞き手に、2年間に及ぶインタビューが待望の書籍化。



小論「宇多喜代子という俳句史」■神野紗希／フォトアルバム／自筆年譜付

聞き手●神野紗希

俳句とともに わが半生の記 宇多喜代子



定価 二二〇〇円（税込） 四六判 並製 二二四頁

主な内容

- 一 子ども時代の原体験、原風景
- 二 俳句との出会い―初期句篇「遙遙抄」の頃
- 三 桂信子、高柳重信らとの出会い―「りらの木」の頃
- 四 新興俳句の世界に分け入る―「夏の日」の頃
- 五 熊野に魅せられて―「半島」「夏月集」の頃
- 六 時の縁、人の縁、地の縁―「象」の頃
- 七 戦争と俳句―「記憶」の頃
- 八 俳句の土壌を耕す―「円心」「森へ」の頃
- 九 俳句の未来を思う―「雨の日」の頃

◆宇多喜代子（うだ きよこ）
昭和10（1935）年、山口県徳山市生まれ。「獅林」を経て「草苑」入会、桂信子に師事。同誌編集長を長く務める。
平成16年、桂信子逝去後、「草樹」を創刊。第29回現代俳句協会賞、第35回蛇笏賞、第27回詩歌文学館賞、第14回現代俳句大賞、第72回日本芸術院賞、第61回毎日芸術賞等を受賞。令和元年、文化功労者に選ばれる。
句集に、『りらの木』『夏月集』『象』『記憶』『森へ』他、著書に、『ひとたばの手紙から』『俳句と歩く』他多数。
現在、現代俳句協会特別顧問、「草樹」会員代表。

ご注文はJRCへ

FAX: 03-3294-2177

●JRC より全ての取次への出荷が可能です。●返品は長期にお受けします。（了解者：JRC 宮尾）

番線印	注文数	冊	俳句とともに わが半生の記 宇多喜代子 著
	注文日		
ご担当：_____様	四六判 / 並製 / 224頁 / 定価：2200円（本体2000円＋税10%） ISBN978-4-911090-31-2 C0095		